

大口使用者の水利用に関する 動向調査結果について

1 調査概要・調査結果

「資料 11 大口需要者意識調査報告書」、「資料 11 補足説明資料 大口需要者意識調査報告書【傾斜配点集計版】」により報告。

2 まとめ

(1) 使用状況について

約6割の事業者が、日常から節水対策に取り組んでいる状況であり、そのうち、約3割はさらなる節水対策が可能としており、今後も節水型社会の浸透による水需要の減少が続くものと考えられる。

(2) 料金体系について

約7割の事業者が、逡増型料金体系における大口使用者の負担緩和を望んでいる状況であり、見直しが求められていることが伺える。

一方で、約9割の事業者が、水量料金の単価が低くなったとしても、使用水量は変わらないと回答しており、水需要の喚起には繋がらないものと考えられる。

(3) 使用水量について

約8割の事業者が、ここ数年の使用水量の傾向について大きな変化はないという状況。また、長期的な見込みについても、約7割の事業者が、大きな変化はないと回答しているものの、これまでの水使用量が減少傾向にあることを踏まえると、水需要の減少は続いていくものと考えられる。

(4) 水道水以外の水源使用について

約7割の事業者が、水道水以外の水源について使用する予定はない状況。しかし、一部事業者においては、今後、他の水源の使用量増や、新たに他の水源の使用を検討している状況であり、水道水の使用減に繋がるものと考えられる。

3 今後の対応について

今回のアンケートでは、水道水の使用実態などの基本的な項目についての確認にとどまったが、今後は、より踏み込んだ内容についてのアンケートや、訪問による聞き取り調査を行うなど、継続して調査を行うことで、水需要の実態把握に努め、今後予定している料金制度の見直しに反映していく考えである。